

2 吊引戸のブレーキ力 (ソフトクローズ機構)の調整方法

【用意するもの】 ●マイナスドライバー ●軍手 ●脚立



吊引戸を開閉する際の衝突音や跳ね返りを抑える為、速さを調整するブレーキが発生します。



ブレーキ力が強いと扉が早く止まります。



ブレーキ力が弱いと扉が勢いよく開き引戸枠にあたって、扉や枠に傷がつく場合があります。



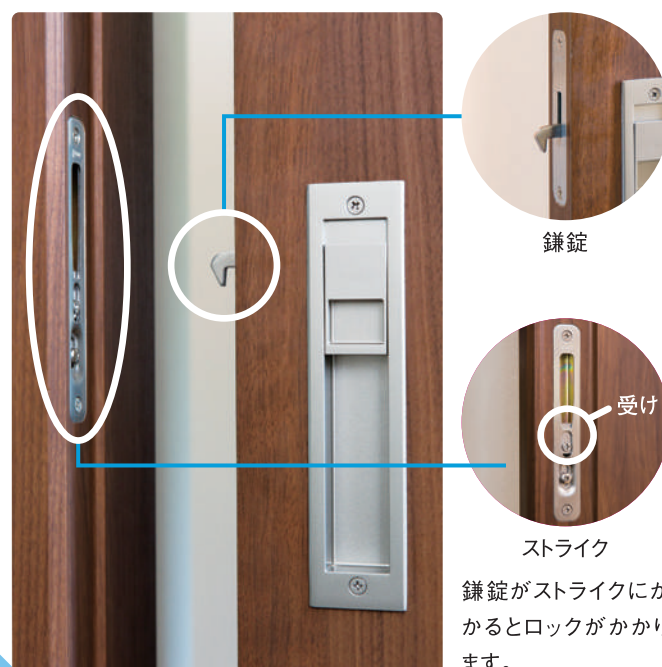
【ブレーキ力の調整位置】
左の写真Dの位置にブレーキ力の調整レバーがあります。



【ブレーキ力の調整方法】
調整レバーの溝にマイナスドライバーの先を入れ、aの方向にスライドさせるとブレーキ力が強くなります。bの方向へスライドさせるとブレーキ力が弱くなります。
※左開きの場合は調整する方向が逆になります。

3 錠のロックがかかりにくい 場合の調整方法

【用意するもの】 ●プラスドライバー ●軍手



ストライクの位置(上下、奥行)の調整が終わったら最後に鍵がしっかりロックできるかどうか確認してください。



ストライクの受けの 高さ調整

下のネジをゆるめるとストライクの受けの高さ(上下)を調整できます。



ストライクの受けの 奥行の調整

ロックにガタツキが生じた場合上のネジをゆるめるとストライクの受けの奥行の長さが調整できます。

吊引戸の調整方法

長年の使用により、吊引戸と引戸枠の間にすき間ができたり、ソフトクローズ機構の閉じ具合が悪くなったり、錠のロックがかかりにくくなったりと不具合がでた場合は、ほとんどがご自分で調整して直すことができます。今回ご紹介する調整方法を参考に、吊引戸の調整にお役立てください。



ドライバーは正しい姿勢正しい持ち方で使用ください

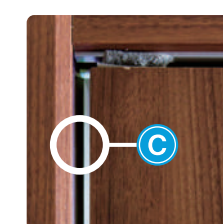
【技術監修】植月 英貴
トヨタホーム アフターサービス担当
DIYアドバイザー



- 脚立をご使用の際は転倒等十分にお気をつけください。
- 各メーカーの取扱説明書や使用上の注意書きを必ずお読みください。

1 吊引戸のすき間や 閉じ具合(ソフトクローズ機構)の調整方法

【用意するもの】 ●プラスドライバー ●軍手 ●脚立



引戸を閉じた状態で吊引戸と引戸枠の間にすき間(左の写真C)が見えたら吊引戸が傾いているかもしれません。



吊引戸を閉じる際、吊引戸がゆっくりと自然に閉じずソフトクローズ機構が働かない場合は、吊引戸が傾いている可能性があります。
※ソフトクローズの速度調整はできません。

吊引戸と引戸枠のタテのすき間全体を見て、傾きがないように調整します。



【調整ねじの場所】
上の写真Aの部分にあるのが吊引戸の位置を調整するねじです。上が左右の調整ねじ、下が上下の調整ねじです。



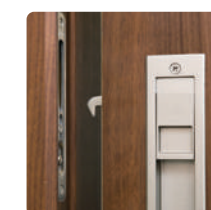
【上下の調整】
下のねじを時計回りに回すと扉が上に、反時計回りに回すと扉が下に移動します。



【左右の調整】
上のねじを時計回りに回すと扉が右へ、反時計回りに回すと扉が左へ移動します。



【反対側の調整ねじの場所】
扉の反対側(上の写真B)にも同じように上下左右の調整ねじがあります。



最後に鍵がしっかり閉まるかどうか確認します。



スマートフォンやパソコンからOwner's webにログインしていただくと、今回ご紹介した3つの「お手入れ動画」をご覧いただけます。